

平成 29 年 3 月 31 日

平成 28 年度事業報告

社会福祉法人山形福祉会

社会福祉事業

社会福祉法で定める目的に基づき、福祉サービス利用者の利益の保護及び地域における社会福祉の増進を図ることを本旨とし、また介護保険法の理念に基づいて、当法人の目的とする利用者の意思及び人格を尊重し、地域社会において自立した生活を営むことができるよう各種支援、サービスの提供に努めた。

法人の経営理念である「利用者を敬い、安心と満足を追求し、信頼される法人をめざします。」の達成に向けて職員の意識改革に努めた。

- ① 利用者のニーズに沿ったケアプランにより、介護サービスのあり方を検討し、サービスの向上に努めた。デイサービス事業は、10月から介護予防・日常生活支援総合事業を実施し介護予防に努めた。一日平均利用者数は、通所介護 13.5 人、介護予防通所介護 6.7 人、介護予防・日常生活支援総合事業 2.7 人で合計 22.9 人となり、前年度より 1.8 人増加した。

ホームヘルプサービス事業は、未提供サービス区域をサービス区域に編入したことにより 2 人の利用が図られた。

居宅介護支援事業に介護支援専門員 1 名を増員し、居宅サービス計画の作成や要介護認定調査、相談活動の充実に努めた。

- ② 職員の資質の向上のため、各種研修会に積極的に参加しスキルアップに努めた。新採用職員については、介護スキルの向上のみならず、事務能力や人間力の向上のため一定期間の職業能力開発研修に参加させ有意な人材の育成にも取り組んだ。
- ③ 高まる医療ニーズに対応するため、介護職員の医療的ケア研修の受講に努めた。また県立久慈病院で行っている褥瘡研修会に参加し褥瘡発生の予防に努めた。介護福祉士資格取得支援として介護職員初任者研修に職員を派遣した。また、内部研修についても逐次開催した。特に外部講師を招へいし、「排泄ケアの基本」の研修会や介護サービス技術向上のためDVD学習を実施した。
- ④ 利用者の日常生活の不安や孤独感の解消、娯楽の充実に努めるため、訪問の受け入れや各種行事を実施した。また、社会との触れ合いによる生活の充実感を図るため可能な利用者にとっては、外出の機会を増やすためバスハイクに積極的に取り組んだ。利用者にも好評であり今後も継続実

施していきたい。

- ⑤ 身体介護や生活援助に併せ、利用者ひとりひとりのサービスの工夫に努めた。特にもできる運動などを通じて身体機能の維持向上に努めた。
- ⑥ 久慈市から管理委託されている高齢者生活福祉センターについては、必要な介護サービスを受けることで自立した生活を営むことが可能である場合の利用を可能としたことで、利用対象者の範囲が広がり、8名の入居があり満室となった。久慈市等関係機関との連携を密にし、入居検討委員会のすみやかな開催などスムーズな事業運営や入居者の趣味活動などの支援に努めた。
- ⑦ 第2次中・長期アクションプランの内容や平成28年度事業計画の説明を全職員に行い、アクションプランや事業計画の理解を通じて円滑な事業の推進に努めた。また、施設・設備整備計画に基づいた設備の購入、更新や修繕を行い適切な維持管理に努めた。
- ⑧ 特別養護老人ホーム愛山荘入所に関する指針に基づいた入所検討委員会を5回開催し、公正、適切な入所順位者の決定に努めた。